

Visitor パターンを用いた言語処理系に対する並行処理の追加

河原 那夏 202003507

1 はじめに

本研究で扱う Lox 言語の式と文の演算の実装には Visitor パターンというデザインパターンが使われており、演算ごとに評価をするための共通のメソッドをオーバーライドで実装し、言語の拡張がしやすいものである。そのため、ひとつの演算に並行処理を実装できれば、すべての演算に実装が可能である。また、並行処理によって処理速度を向上が可能であれば、実行時間が短く、拡張のしやすいインタプリタの開発に役立てると考えた。

本研究では複数の文を並行に処理する parallel 文という演算を追加し、通常通り一つずつ順番に処理をしている方法よりも処理速度が向上するか、向上していた場合には実行時間がどれほど短縮していたか比較する。

2 背景

Lox 言語 [1] とは動的型付けで、変数にはあらゆる型の値を格納することができるシンプルな言語である。そのインタプリタは Java 言語で作られており、Lox コードをまず Scanner クラスでトークンに分け、それを Parser クラスで木構造のようにノードを繋ぐことで式と文の形にし、できたものを Interpreter クラスで評価をする。

また、評価の実装に使う Visitor パターンはそれぞれの式や文の演算ごとに評価を実行する同じメソッドを持つクラスを作り、それをクラスごとにオーバーライドで実装することで適切に評価を行うことができるものである。このパターンを使って演算ごとのクラスを生成スクリプトを使って実装することで演算を追加する作業を減らすことができ、また、演算の定義をサブクラスで行うことで、演算の定義を変えるたびに生成スクリプトそのものを書き換える必要が無くなる。

以上を踏まえ、parallel 文の実装をする。

3 parallel 文

複数の文を並行に処理をする parallel 文を追加する。

- Lox コードでの使用例

文字列を受け取り、それを繰り返し出力する関数を parallel 文を用いて記述すると以下ようになる。

```
fun a(n){
    for (var i = 0; i < 10000000;
        i = i + 1) { print n ; }}
fun paralleltest(){
    parallel{
        a("a"); a("b"); a("c"); a("d");}
    // a("a"); a("b"); a("c"); a("d");}
    paralleltest();}
```

- 実行結果

文字列をランダムな順番に出力していることから、並行に処理されていることが確認できる。

d c a b c d c c a b a c d c a ...

4 実装

実際にこの parallel 文を実装する。

- TokenType.java

まず Scanner クラスが Lox コードに書かれる parallel 文のキーワード「parallel」をトークンにするために TokenType に PARALLEL トークンを追加する。

```
enum TokenType { ...
    PRINT, PARALLEL, RETURN, SUPER, THIS,
    TRUE, ... EOF }
```

- Scanner.java

Scanner クラスが parallel を PARALLEL トークンにするように追加する。

```
keywords.put("parallel", PARALLEL);
```

- Parser.java

Parser クラスが PARALLEL トークンを見つけると parallelStatement() を行う。parallel 文の中にある文をリストにし、それをフィールドに入れた PARALLEL クラスのインスタンスを返す。

```
private Stmt parallelStatement(){
    List<Stmt> bodies
        = new ArrayList<Stmt>();
    consume(LEFT_BRACE,
```

```

    "Expect '{' after 'parallel'.");
while(!check(RIGHT_BRACE)){
    ... //要素を 255 まで受け取る
    bodies.add(statement()); }
consume(RIGHT_BRACE,
/*エラーメッセージ*/);
return new Stmt.Parallel(bodies); }

```

- GenerateAst.java

このコードでは追加したい演算の名前とそのフィールドを追加することで Stmt.java に対応したクラスを生成する。

```
"Parallel    : List<Stmt> stmtS"
```

- Stmt.java

「GenerateAst.java」より Visitor パターンのためのクラスが生成されている。

```

static class Parallel extends Stmt {
    Parallel(List<Stmt> stmtS) {
        this.stmtS = stmtS; }
@Override
<R> R accept(Visitor<R> visitor) {
    return
        visitor.visitParallelStmt(this);
} final List<Stmt> stmtS; }

```

- Interpreter.java (visit メソッド)

Interpreter クラスでは変数の値などの状態を持っており、また、Interpreter クラスはブロックごとに呼び出されているためブロックごとに状態がある。visitParallelStmt() では並行に処理する文ごとに ForkJoin を持つクラスのインスタンスを割り当てる。引数には文ひとつと Interpreter のインスタンスを複製したものを入れ、fork(),join() で実行している。複製したインスタンスは parallel 内の状態だけを持っているので、外側の状態は parallel 内のすべての文で共有している。

```

@Override
public Void
visitParallelStmt
    (Stmt.Parallel stmt){
    int size = stmt.stmtS.size();
    List<ExeFork> exeforks
    = new ArrayList<ExeFork>();
    for(int i = 0; i < size - 1; i++){
        exeforks.add(new ExeFork
            (stmt.stmtS.get(i),
                this.clone()));
        exeforks.get(i).fork(); }
    execute(stmt.stmtS.get(size - 1));
    for(int i = 0; i < size - 1; i++){

```

```

        exeforks.get(i).join();
    } return null; }

```

- Interpreter.java (ForkJoin)

受け取った文を複製したインスタンスを使い評価する。

```

class ExeFork
    extends ForkJoinTask<Object>{
    Stmt stmt;
    Interpreter interpreter;
    Object result;
    ExeFork(Stmt s, Interpreter i){
        stmt = s;
        interpreter = i; }
    ...
    public boolean exec(){
        setRawResult
            (stmt.accept(interpreter));
        return true; }}

```

5 評価

実際に追加した parallel 文を使用する場合と使用しない場合で実行時間を比較する。比較する Lox コードは「Lox コードでの使用例」のものをを使うが、文字の表示を行わずに比較する。測定には System.currentTimeMillis() を使い、main メソッド内で runFile() を 10 回行い、それをまた 10 回実行することで計 100 回 Lox コードを評価し、その 1 回あたりの平均時間を実行時間とする。

- parallel 文を使った場合

平均 2739.24ms

- parallel 文を使わなかった場合

平均 4711.2ms

parallel 文を使った場合、使わなかった場合に比べて 0.58 倍の実行時間と処理速度が向上した。

6 まとめ

本研究では複数の文を並行に処理する parallel 文を実装し、parallel 文を使わなかった場合よりも実行時間を短くすることができ、Visitor パターンを用いたインタプリタに対し、並行処理の有効性を示すことができた。

参考文献

- [1] Robert Nystrom, Crafting Interpreters, <https://craftinginterpreters.com/>.